

I 生涯学習社会における人づくり

1 思いやる力やたくましく生きる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実

① 魅力ある生涯学習の環境整備

取組み1 県立社会教育施設的环境整備	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 「価値を創造する図書館¹」として、県立図書館の再整備を進めるため、新棟新築工事に着手した。 県立社会教育施設の老朽化対策のため、県立金沢文庫の自動火災報知設備ほか改修工事、県立歴史博物館の中央監視装置更新工事や、県立生命の星・地球博物館の空調設備改修やエレベーター更新に向けた実施設計を行った。 令和元年度に実施した長寿命化対策のための調査に基づき、長寿命化計画を策定した。  <p style="text-align: right;">県立図書館新棟完成イメージ</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> 築年数が経過した県立社会教育施設について、施設や設備の老朽化や収蔵スペースの狭隘化が進んでおり、計画的に対策を講じることが課題である。
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> 県立図書館新棟については、「価値を創造する図書館」の機能を十分に発揮するための具体的な取組みに係る検討を進めていく。また、「魅せる図書館²」としての本館の機能や、収蔵庫として改修する新館についても、引き続き具体化に向けて検討し、再整備を計画的かつ着実に進めていく。 今後の県立社会教育施設の適切な施設運営を図るため、長寿命化計画に基づき計画的に対策を講じていくとともに、収蔵スペース確保のための整備手法を検討していく。
取組み2 県立社会教育施設における生涯学習事業	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 県民の「学び」や「学び直し」を支援するため、県立社会教育施設において、資料の収集・整備・保存作業を進めるとともに、調査研究及びその成果を活用した展示事業や教育普及活動を施設内だけでなく、インターネット上でも実施した。 <p>【新型コロナウイルス感染症の影響を受けたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立社会教育施設を臨時休館等したことに伴い、施設内における一部の展示事業や教育普及活動を中止した。 自宅でも県立社会教育施設の取組みを楽しんでもらえるよう、各施設のホームページを用いて、Webコンテンツを発信し、これらのコンテンツの一部を集約した共同企画「おうちでミュージアム&ライブラリー」を公開したところ、令和2年度は30,533件のアクセスがあった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた社会状況の中で、県立社会教育施設における生涯学習事業の実施方法の更なる検討が課題である。

¹ 価値を創造する図書館

図書館の専門性や広域性を活かして、本や人との出会いの機会を提供し、県民のさらなる学びにつなげていくことを支援する機能を備えた図書館。

² 魅せる図書館

県立図書館ならではの特色ある建物や蔵書等を活かして、人を惹きつけ、人が訪れる、魅力ある図書館としての機能を備えた図書館。

今後の対応方向	・ 「新しい生活様式」を踏まえ、県民の「学び」や「学び直し」の機会が提供できるよう、県立社会教育施設のホームページによる情報発信など、生涯学習事業の実施方法を検討していく。
---------	--

県立社会教育施設における展示・講座内容

施設名称	展示・講座名称
県立図書館	「文字・活字文化の日記念講演」 ほか
県立川崎図書館	展示「分身ロボットOriHime ～ 距離や障害を乗り越えるテクノロジー～」 ほか
県立金沢文庫	開館90周年記念特別展「東アジア仏教への扉」 ほか
県立近代美術館	「生命のリズム 珠玉の日本画展」 ほか
県立歴史博物館	特別展「相模川流域のみほとけ」 ほか
県立生命の星・地球博物館	企画展「 Gondwana 岩石が語る大陸の衝突と分裂」 ほか

県立社会教育施設の入館者数の推移（人）

	県立図書館	県立川崎図書館 （※1）	県立金沢文庫 （※2）	県立近代美術館 （※3）	県立歴史博物館 （※4）	県立生命の星・ 地球博物館	合計
平成30年度	142,708	68,892	41,375	141,150	121,415	313,533	829,073
令和元年度 （※5）	143,349	83,244	23,128	99,451	113,331	294,286	756,789
令和2年度 （※6）	75,040	51,845	9,479	45,145	34,108	131,986	347,603

※1 かながわサイエンスパークへの移転・再開館準備のため、平成29年12月1日から平成30年5月14日まで休館。

※2 空調設備改修工事のため、令和元年11月18日から令和2年3月26日まで休館。

※3 葉山館は空調設備等改修工事のため、令和2年1月から6月まで展示休止。

鎌倉別館は改修工事のため、平成29年9月4日から令和元年10月11日まで、令和2年7月6日から令和3年3月31日まで休館。

※4 空調設備等改修工事のため、平成28年6月1日から平成30年4月27日まで休館。

※5 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年3月4日から3月31日まで臨時休館等。

※6 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年4月1日から6月8日まで（県立生命の星・地球博物館のみ6月30日まで）臨時休館等。

また、令和3年1月12日から3月21日まで、県立の図書館2施設は開館時間を最長19時までとし、県立の博物館及び美術館の4施設は臨時休館。3月22日以降は、県立の図書館2施設は開館時間を最長20時までとし、県立の博物館及び美術館の4施設（県立金沢文庫のみ3月26日以降）は事前予約した方に限り入館可能とした。

② 実践的防災教育の推進

取組み1 DIG（災害図上訓練） ³ 等の実践的防災訓練の推進	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的防災教育のため、児童・生徒等を対象としたDIGを県立学校77校で実施した。 ・ 各学校で中心となってDIGを実施する予定の教員を対象とした「災害図上訓練（DIG）研修」を実施し、受講した教員の84%が、自校においてファシリテーターとしてDIGを実施できるとアンケートに回答していることから、県立学校において防災教育のリーダー的役割を果たす人材の育成を図ることができた。 <p>【新型コロナウイルス感染症の影響を受けたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DIGを実施できなかった県立学校が92校あった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未実施の学校や一部の生徒のみがDIGに参加している学校もあるため、全生徒が在籍中に最低1回はDIGに参加できる学校が増えるよう、新型コロナウイルス感染症の感染状況に左右されない実施方法を提案していくことが課題である。 ・ 災害時に、自他の命を守るための適切な行動ができる力を身に付けるには、DIGに加えて、体験的な訓練を実施するなど防災訓練の充実を図ることが課題である。

³ DIG（災害図上訓練）

参加者が、大きな地図を囲み、書き込みと議論を行うワークショップ型の災害図上訓練。災害（DISASTER）、想像力（IMAGINATION）、ゲーム（GAME）の頭文字をとって「DIG」（ディグ）と名付けられている。

<p>今後の対応方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全生徒が参加するDIGの取組事例について収集し、校長等を構成員とした学校防災推進会議などを通じて周知していく。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況によらず、DIGと同様の内容を体験できるように「災害図上訓練（DIG）研修」等において、ICT等を活用したDIG体験等を検討するとともに、体験的な防災訓練の事例の周知に努めていく。
<p>取組み2 地域と連携した学校防災</p>	
<p>実績・成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関する知識、判断力を身に付け、地域の防災活動に貢献する意識の向上を図るため、県立学校で防災訓練を実施した。 ・ 教員対象の「防災教育研修講座」を実施し、受講した教員の97.8%が、防災教育に必要な知識の理解が深まったとアンケートに回答していることから、防災教育担当の教員の指導力向上を図ることができた。 ・ 高校教員向け「学校における防災教育指導資料」について、風水害に関する指導方法を加えて改訂し、防災教育のより一層の充実を図った。 <p>【新型コロナウイルス感染症の影響を受けたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の自助・共助意識の向上に向けて、生徒を対象とした「宿泊防災訓練」を県立学校7校で実施する予定であったが、宿泊の伴わない訓練に替えて実施した。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度は小・中学校教員向け、令和2年度は高校教員向けの指導資料を改訂したが、防災教育の教科横断的な学びを学校全体で取り組むため、カリキュラム・マネジメント⁴の推進が課題である。 ・ 宿泊を伴う訓練の実施が難しい状況が続くことが想定されることから、宿泊を伴わずに、「宿泊防災訓練」と同様の内容が体験できるような方法を新たに各学校に提示していくことが課題である。
<p>今後の対応方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領の実施に向けて中核教員を対象とした「防災教育研修会」を実施し、学校の防災教育の現状と課題や地域・自治体との連携について情報提供し、学校防災を推進していく。 ・ 「学校における防災教育指導資料」を活用し「総合的な探究の時間」を中心とした教科横断的な学びを推進していく。 ・ 宿泊を伴う訓練の実施については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見据えて判断することとし、多くの生徒が「宿泊防災訓練」と同様の内容を体験できるよう実施方法等を検討していく。



自衛隊による衛生救護の説明

③ 人権教育の推進

<p>取組み1 人権教育の推進</p>	
<p>実績・成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県及び市町村教育委員会の教職員や指導主事など人権教育指導者を対象とした研修会等を開催した。 ・ 人権教育推進のための資料整備、指導資料を作成した。 ・ 人権教育に関する指導方法の改善及び充実に資するとともに、その研究の成果を本県の人権教育に反映させることを目的とした研究委託事業を実施した。 (研究校：小学校2校、中学校2校) ・ 人権教育の普及及び人権課題への対応のために、人権移動教室の事業の委託を行うとともに、啓発資料に外部相談窓口を掲載する等、NGO、NPOと連携を

⁴ カリキュラム・マネジメント

各学校の教育目標を達成するため、教育課程を実施し、評価して、改善していくこと。

	図った。
課 題	・ 各種研修会で取り扱う人権課題を、「性的マイノリティの人権」など、学校で求められていることや今日的なテーマに対応した内容にしていくことが課題である。
今後の対応方向	・ 児童・生徒が豊かな人権感覚をより一層養うことができるよう、各教科や道徳の時間を始め、総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育活動のあらゆる場面で引き続き人権教育を推進していく。 ・ 新たな人権課題等について、国の施策や学校で生じている課題を把握した上で、普及啓発資料の作成や研修を実施していく。

④ 読書活動の推進

取組み1 読書活動の推進	
実績・成果	・ 平成31年3月策定の「かながわ読書のススメ～第四次神奈川県子ども読書活動推進計画」に基づき、生涯学習指導者研修「読書活動実践コース」を開催するとともに、子ども読書活動推進フォーラムは、「かなチャンTV」によるオンライン配信を行い、子どもの読書活動にかかわる方の資質の向上に寄与した。 ・ 学校図書館の利活用の促進を図るため、学校図書館ボランティアを始めようとする方、始めたばかりの方を対象とした「学校図書館ボランティアハンドブック」を令和3年3月に改訂し、小学校・中学校・高等学校等に配付及び県ホームページへ掲載した。
課 題	・ 子どもたちの読書活動を更に推進するため、子どもの読書への関心をより高めていくことが課題である。
今後の対応方向	・ 子どもが読書に親しむための人づくり、環境づくり、情報収集・発信のための様々な取組みを、「家庭」、「地域」、「学校等」、「専門・関係機関及び団体等」が緊密に連携して進めていく。 ・ 「学校図書館ボランティアハンドブック」が、子どもの読書活動の推進に携わる方に幅広く活用されるよう、周知を図っていく。

2 社会とかかわる力を身に付ける自分づくりへの支援の充実

① 「シチズンシップ教育⁵⁾」の更なる推進

取組み1 「小・中学校における政治的教養を育む教育」の推進	
実績・成果	・ 「小・中学校における政治的教養を育む教育」指導資料（平成28年度発行）を基に、実践協力校4校（小学校2校、中学校2校）を指定し、授業研究を実施した。 ・ 実践協力校連絡会を5回開催し、効果的な指導法について研究協議を実施した。その成果を指導事例集に追加掲載し、県ホームページや全県指導主事会議等で周知した。 ・ 指導資料及び指導事例集の県ホームページ閲覧回数が6,799回（前年度比+2,245回）と、周知が図られた。
課 題	・ 小・中学校を通じた政治的教養を育む教育について、県立高校等での取組みを参考としながら、市町村教育委員会と共に更に推進していくことが課題である。 ・ 特に、実践協力校での取組みにおいて、様々な配慮が必要な児童・生徒の意思決定や意思表示等を支えるための、効果的な指導法等について研究を進めることが課題である。

⁵⁾ シチズンシップ教育

積極的に社会参加するための能力と態度を育成する実践的な教育として、本県では、キャリア教育の一環で平成23年度からすべての県立高校等で実施し、令和2年3月からは「法に関する教育」「政治参加に関する教育」「経済に関する教育」の3領域と、それらに共通してかかわる「モラル・マナーに関する教育」に整理している。

今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度、実践協力校5校（小学校2校、中学校3校）において、「主権者教育」の在り方について検討及び実践し、小・中学校及び特別支援学校における政治的教養を育む教育を実践するための参考となる事例集の追加編集作業を行っていく。
取組み2 実践的なシチズンシップ教育の実施	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> シチズンシップ教育指導用参考資料の改訂に伴い、改訂の趣旨やシチズンシップ教育の意義について確認し、全県立学校におけるシチズンシップ教育の推進を図るため、シチズンシップ教育担当者説明会を開催した。 県立高校等において、「経済に関する教育」のうち消費者教育について、成年年齢引下げを踏まえ、県消費生活課が作成した消費者教育資料JUMP UP等を活用し、契約の重要性や消費者保護のしくみなどを学び、消費者問題啓発チラシの作成をするなど体験的な学習を実施した。 県立特別支援学校において、高等部の生徒が「消費者の基本的な権利と責任」について学ぶ際には、生徒がキャッシュレス支払いのロールプレイを行うなど、より実践的・体験的な活動を通して、身近な消費生活における課題や対処方法について学習した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 成年年齢引下げに伴い、生徒が在学中に成年年齢に達し、親の同意がなくても契約行為が可能となり、消費者トラブルの増加が予想されるため、消費者教育のより一層の充実が課題である。
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> 法に関する教育については、弁護士などを講師とした教員向けの研修をオンライン等も活用しながら実施するなど引き続き指導力の向上を図っていく。
取組み3 県立学校における政治参加教育	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校指定校事業の一環として、県立高校6校で新科目「公共」の単元指導計画及び教材の作成、授業案の開発を行い、それらに基づいた政治参加教育に係る授業を実施した。 市議会と連携した地域参画型の授業実践など、模擬投票以外の政治参加教育の事例を各種の説明会等で周知した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 参議院議員通常選挙を活用した模擬投票を全県立学校で実施しているが、参議院議員通常選挙が実施されない年における主権者教育のより一層の充実が課題である。
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> 県選挙管理委員会等と連携し、令和3年9月までに、主権者教育の一層の充実に向けた検討を行っていく。 県内の市議会等が開催している高校生対象の議会報告会などに生徒が参加し、議員との意見交換など、体験的な活動に各高校が取り組むよう促していき、その成果を周知していく。

3 生涯にわたる自分づくりの推進に向けた協働・連携の拡大・充実

① 「かながわ教育ビジョン」の着実な推進

取組み1 「かながわ人づくりコロポ⁶」の開催と「かながわ教育月間⁷」の取組み	
実績・成果	<ul style="list-style-type: none"> 県民の教育に関する理解と関心を深めるため、「かながわ教育月間」を設定し、期間中に実施された294件の教育イベントのうち、周知を希望する233件について広報を行った。

⁶ かながわ人づくりコロポ

「かながわ教育ビジョン」の推進を図るため、テーマに沿った基調講演や学校の実践紹介等をもとに、県民の方々と教育論議を行い、これからの「かながわの教育」について、共に考える場として「かながわ教育月間」中に開催。

⁷ かながわ教育月間

「かながわ教育ビジョン」で掲げた理念の実現に向け、県民一人ひとりに、スポーツ・文化を含めた教育への関心や参加意識を高めていただくことで、協働・連携によるかながわの人づくり・自分づくりを進め、かながわの教育をより一層推進する契機とするため、教育に関する取組みを集中的に開催する期間。10月1日から文化の日（11月3日）までの34日間。平成28年4月に設定。

	<p>【新型コロナウイルス感染症の影響を受けたもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育ビジョンの進捗状況をもとに、今後の人づくりの方向性等を参加者と議論する「かながわ人づくりコラボ 2020」を11月に開催する予定であったが、中止した。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた社会状況における「かながわ人づくりコラボ」を始めとした各種イベントの実施方法の検討が課題である。
今後の対応方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新しい生活様式」を踏まえ、県民の安全・安心を前提に、理解と関心を高めるような「かながわ教育月間」やオンラインを活用した参加しやすい「かながわ人づくりコラボ」の企画を検討していく。

有識者の意見

【大柱全体を通して】

- 「生涯学習社会における人づくり」について、「学び」の段階的な発展として表現や実践があると思うので、「学習」の意味を広義に捉え、担い手育成など実践的な活動に有機的につながっていくようなしくみが必要であると感じる。
- 社会教育施設等の充実は図られている。また、防災や人権などの教育課題は高校の「探究の時間」と関連付けることによってより高い成果につながり、そのために地域と連携することによって地域にも影響を及ぼすという相乗効果が得られる。

【中柱1-①について】

- 「価値を創造する図書館」というフレーズには共感する。実効的になるためには、施設の機能を複合用途化させることで本を通じて学んだことが次に活かせるようなしくみをもった施設であることを期待する。
- 生涯学習関連施設の整備は順調に進んでいる。コロナ禍においては利用者数の減少はやむを得ず、またインターネットやWebコンテンツの利用の推進によって一定の成果が得られたと評価できる。今後、コロナ禍にかかわらず、遠隔型サービスを拡充していくことが課題になる。その場合、これらサービスを利用できない県民も視野に入れる必要がある。

【中柱1-②について】

- これまでもDIGは一定の成果を上げていたので、課題に記されているように今後も継続するとともに実施校を更に増やしていくことが望まれる。

【中柱1-③について】

- 人権教育は身近な生活を通して進める必要があることから、学校と地域の連携による取組みが効果的になる。そうすれば、生徒のみならず、地域住民等に対しても教育的影響を与えることができる。学校・地域連携による人権教育の在り方の検討を期待したい。

【中柱1-④について】

- 高校生が小学生等に読み聞かせを行うなどの工夫の検討も重要だと考えられる。

【中柱2-①について】

- 政治的又は経済的なりテラシーの獲得には、まずは自分が社会の一員であることの認識と、その中で生きていく過程においては様々な選択の連続であることを理解する必要がある。子どもにとってはハードルが高い課題だが、政治や経済のしくみを理解することに加えて、「基盤」となるのは、しくみを理解した上で更に自分で物事を判断するための立ち位置や価値観を獲得することであると感じる。